

菅茶山 顕彰会 会報

第 13 号
発行

菅茶山先生
遺芳顕彰会
2003年3月1日



廉塾ホエム祭りステージ

廉塾と本陣の祭り

高橋孝一

昨年十月、神辺のシンボルである「廉塾」と「神辺本陣」を会場にした二つの「秋祭り」が、本顕彰会の主催（共催）によって相次いで催された。

その一つは、茶山ホエム絵画展十周年記念「廉塾ホエム祭り」で、十月十四日、廉塾周辺の特設会場で開催された。

会場では、「茶山ホエム絵画回顧展」「茶山ホエムの歌発表会」「町並み史跡ラリー」「屋台」など、廉塾の長い歴史の中で初めての「秋祭り」を楽しむ約五百人の人たちで、七日市の町並みは二百年前のにぎわいを戻した。

今一つは、十月二十日～二十九日の十日間、神辺本陣で開催された「動く夢シアタ」である。

ご存じのとおり、井原線開通以来、神辺町を訪れる観光客が急増するにつけ、本陣向かいの神原さん（本会理事）が見るに見かねて、案内ボランティアをかって出られることになり、いきおい、本会理事の有志も本陣案内役をボランティアすることになった。

この度、県内に唯一伝わる神辺本陣を多くの人に知っていただき、文化交流の場を通して出会いと感動の機会を提供することを目的にしたイベントをいっしょにやろうという「あや・夢の里」の呼びかけにに応じて、共催で初めて開くことになった。連日盛会で、延べ五千人を超える来場者があり、予期以上の成果をあげることができた。

期間中のNHK広島テレビ放送も神辺町の情報発信になり、本会の実力もあまた人の知るところとなったのも、今回の余祿であった。

二つの「祭り」は、いずれも史上初の祭りであったが、これらの祭りを通して、神辺が誇る文化財のすばらしさを見直すことができたのではないかと思う。これからも文化活動に生かしていきたいものである。

この二つのイベントに、格別のご協力ご支援をいただいた多くの方々に深く感謝申し上げる次第である。

（菅茶山先生遺芳顕彰会会長）